

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202437		
法人名	有限会社山秀		
事業所名	マミー・ケア・サポートグループホーム 3F		
所在地	静岡県葵区新伝馬1-10-50		
自己評価作成日	令和5年 8月 10日	評価結果市町村受理日	令和5年 9月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 8月 24日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち共に生きよう』という理念の基に、入所者様の人間性を尊重して。介護に努めます。  
 入所者様同士、また職員との絆を、より深める為にみんなで楽しめるイベントなど話題づくりを心掛けています。  
 毎月、季節の移り変わりを感じて頂けるよう、すべてのご利用者様にお花の鑑賞等の外出支援を提供しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念「ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち共に生きよう」を掲げている。インスタグラムから情報を得た簡単なオンライン研修に職員自ら参加し、10日程度であるが集中的にスキルアップを図るなど、前向きで意欲的な職員が多い。半数以上が介護福祉士の資格を習得している。職員の年齢層は、70歳代のベテランから新任で勤続3年の職員と幅広いが、入れ替わりは少なく定着率は高い。管理者がボトムアップ体制を敷いている事により、主任を中心に職員から意見や要望が活発に出され、職員の自信に繋がっている。結果、利用者と職員の自然な距離感が生まれている。家族からは話しやすい雰囲気、本人本位の対応が有難いとの声がある。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、のんびり、生きがいをもち、共に生きよう」という理念に基づき、ゆったりとした環境の中、理念の共有と実践に向けて努力をしている。	次のステップとしていた「職員の理念の理解度」については、訪問調査当日の職員と利用者の距離感や関わり方で実践できていることが確認できた。リビングでは、利用者がのんびりとくつろぎ、自然に寄り添う職員の姿があった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等の活用で地域とのつながりを持っている。事業所としては、地域にむけて介護相談窓口として案内を出すなど取り組んでいる。	地域行事は徐々に再開されているが、未だコロナ禍前の状態に戻すのは時期尚早と考えている。町内会との関係性は良好で、地域防災訓練には参加している。ボランティアやスタッフ作成によるちぎり絵や切り絵が廊下や居室入口に飾られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症の理解を深めると共に地域の認知症の方の問題点を解決する糸口を提案している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、地域の方や他業種の方から意見を頂き真摯に問題に取り組んでいる。	運営推進会議に出席を希望する家族がいる。不参加の家族全員にも議事録を配布し、平等に情報発信を行っている。議事録には家族に必要な情報が記載されている。地域包括支援センター職員が主に参加しているが、市担当者の出席も実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの指導のもと、必要に応じて連絡を取り、助言を受け、質の向上を図っている。	市介護保険課への運営推進会議議事録の提出は郵送で行っている。介護相談員の派遣について、昨年度に同担当課に問い合わせをしたが、正確な情報提供が得られていない。再度確認を行い、必要性を検討する予定である。	今後は市介護保険課窓口にてできる範囲で出向き、担当者との顔つなぎを積極的に行うことが望ましい。運営推進会議議事録の提出と同時に会議への出席を依頼し、定期的な出席が実現することが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の内部研修を行い、身体拘束をしないケアの実践に向けて施設で取り組んでいる。	今年度の「身体拘束廃止推進員講習」では、不適切ケアについてナースコールの対応を例にディスカッションしている。対応の可否について考えるのではなく、「理由」や「訴えの内容」など利用者の気持ちを考察することで改善策にたどりついている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者自身が、外部の研修に行き、研修内容を内部研修にて発表することで施設全体の意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する研修会に参加し伝達研修を通じて全職員の理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事項の説明・看取りの方針などに関しては、十分な理解や納得が得られるまで説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様のご意見は、面会時やお電話で対応している。また、ご利用者様のご意見はその都度対応している。	利用者や家族、また職員の思いを比べてみると「微妙な違い」があることが、家族アンケートの集計結果より読み取ることができた。家族アンケートの回答から、今後留意する点や改善点などを考えるきっかけを得て、真摯に取り組もうとする姿勢が窺えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにて職員からの意見の聞き取りを行っている。	個人面談は職員の状況などにより必要なタイミングで随時行っている。男性管理者と女性主任が必ず同席して、内容に応じた対応を行っている。ミーティング議事録から、職員の多くの意見や提案が出されていることが確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の高齢化を考慮したシフト体制の提案をしたり、育児中の職員の出勤時間の工夫をし、働きやすさの工夫に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に力を入れており、また資格取得の斡旋を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加をきっかけに他事業所も同様に抱えていると思われる諸問題等について積極的に意見をかわすことができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っていること・不安なこと・要望等を傾聴して、安心感を抱いて頂けるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること・不安なこと・要望等を傾聴して、信頼関係をつくる努力をしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としている支援を聴き取り、医師をはじめ他職種と連携してサービス利用に対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者は、共に生活する者同士の関係を気付く努力をし、家事など手伝って頂けることは一緒に行うなど工夫をしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に介護に携わろうとして下さるご家族様もおられ、共に本人を支えていく関係を築いている。また、遠方でなかなか関わりを持ってない方には、参加型の行事にお誘いしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に沿って、行きつけの理容室や将棋集会、またかかりつけの病院などへ通って頂いている。	年3回の家族会は未だ再開できていないが、面会制限は徐々に緩和されている。現在の面会は週に1回完全予約制で、13時から15時の間に15分程度である。リスク管理を最優先に考えた判断であり、家族も理解されている。手紙や電話などの希望には、極力実現できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、出来る限り皆様がフロアに集まり共に過ごして頂いている。また、体調不慮などでフロアへ出れない場合は、スタッフが居室内で寄り添っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了された利用者様や、ご家族からのご要望があれば、フォローの体制を継続して相談に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や意向の把握に努め、柔軟に対応している。困難な場合は、本人とご家族と会議を行い共に考え、検討している。	訪問調査当日のリビングでは、利用者の傍で自然に寄り添う職員の姿を何度も確認することができた。耳元で話しかける職員と言葉を交わす人や自分から職員に話しかける利用者もあつた。把握した希望等を記録するための「申し送り別ノート」を7月から導入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを行っている。日常生活の中でご本人から知り得た内容も情報として職員間でも共有出来るように介護日誌に記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日々の申し送りで個々の状況を把握するとともに、他職種連携により総合判断し、個々の目標を定め残存能力維持・身体改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日々の生活や身体状況に合わせて、課題とケアについて、ご本人・ご家族・他職種との連携を保ち、創意工夫とアイデアを反映した計画の作成にあたっている。	利用者ごとの「介護支援経過」を担当者が毎月作成し、その情報をもとにサービス計画を見直している。状況変化に応じて管理者、施設長、主任がモニタリングを行い、全体の意見をまとめてケアマネジャーが計画書を作成し、家族の同意も得ている。	家族アンケート集計表より、家族への説明や話し合いの機会に関して管理者が把握しきれなかった部分があることが判明している。利用者家族全員との距離感を再確認する機会と捉えて、状況把握を行い対応を徹底させることが期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に基づく気づきや工夫を介護日誌や申し送りに記録し、職員間での情報の共有ができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービス、訪問サービス、居宅支援とも連携して可能であれば居宅へ戻れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの公民館でのサークル活動に参加したり、いきつけの散髪屋に行ったりとご本人の希望に合わせて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を希望する利用者様には、その支援を行い、週2回定期訪問診療により利用者様の健康管理を図っている。オーナーが歯科医なので、口腔内の管理に迅速に対応している。	現在は、利用者4人が入居以前の主治医に通院しており、家族が付き添っている。一週間分の本人の様子の記録を家族に渡し、管理者が見送るようにしている。月2回の協力医の定期往診以外に、同医院看護師の訪問が月2回ある。職員は、緊急時の訪問看護師の存在を心強く感じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療看護職員と常に連絡をとりながら支援している。また、体調急変時は協力医療機関の指示により、緊急訪問介護がかけつけてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した場合は、医療機関と利用者様のご家族との連絡を密に行い、安心につながる支援をしている。病院とのカンファレンスに参加して、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に十分な時間をもち確認している。また、終末期には改めて家族と意向の確認を行い、終末期の対応を家族と共に考える機会を設けている。	毎年定期的にターミナルケアマニュアル研修を実施し、随時の見直しと必要事項の追加を行っている。訪問看護師の的確な指示により、職員が安心してターミナルケアに関わることができている。かかりつけ医は夜中でも駆けつけてくれる。家族の理解と協力もあり、連携が取れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防局主催による普通救命講習を職員が修了。応急手当や初期対応の訓練を学んでいる。また、毎月、社内研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者様・職員が共に地域消防隊の立会指導のもと、防災訓練を行なっている。	防災訓練はパターンを変えて毎月行い、夜間想定も実施している。訓練実施直後に振り返りを行い、改善策を話し合っている。11月には法人全体の防災訓練も実施予定である。蓄電池を検討した結果、緊急時の酸素ボンベに対応できないことが判明したため、別の方法を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する情報は、スタッフ以外は開けることができない書庫に保管している。利用者様への声掛けは一人一人の人格を尊重するよう日頃より努めている。	呼ばれて嫌な感じがしないような呼び方に配慮し、声掛けは堅苦しくならないように気軽に話しかけている。リビングでは気の合う利用者同士がこじんまりと集まり、良い雰囲気でご過ごしている。訪問調査当日、食後にソファでゆったり過ごす利用者の表情が満足気で明るかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望は、やりとりを細やかに行うことで表しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースを大切に、その人らしい暮らしが出来るように努めている。ご希望は、介護記録に記入して、申し送り出来るようになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望により一緒にショッピングに出かけたり、ご家族の協力を仰いでいる。散髪は、ボランティア(資格有)により支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、時々梅干し作り・干し柿作り・ちらし寿司作り等をスタッフと一緒にやっている。	メニューは湯煎食と手作りの混合で、行事食や手作りおやつも取り入れている。農家からいただく梅や柿で、季節の保存食作りを手伝うことが毎年の恒例となっている。食を楽しむをモットーに、好物を好きなだけ食べて満足してもらえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや医師の指導を考慮した食事を提供している。水分補給も申し送り等で行い、必要量を摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後声掛けと介助により行っている。歯科医がオーナーなので異常時は迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄時間をチェックし、パターンや習慣をいかし気持ち良く排泄できるよう支援している。排泄の自立している方には、排泄時刻の記入をすすめ、スタッフも確認できる仕組みになっている。	排泄状況は前回調査時(2年前)の状態をおおよそ維持できている。その要因として、マッサージ師によるリハビリの効果が大きい。丁寧に根気よく継続することで、自立度の維持に繋がっている。見守りを嫌がる利用者には、居室のポータブルトイレに誘導するなど、個々のパターンに配慮した排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因に沿って飲食や運動により予防と解消の支援を行っている。服薬の際は、医師の指示に従い身体の負担とならないよう配慮して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングを大切にし、利用者様の希望に沿って気持ちよく入浴して頂くよう努めている。	週2回の入浴を目処としているが、毎日入浴する利用者もいる。お湯は常に循環させながら、数人間隔で定期的に入れ替えている。ヒートショック対策として、浴室と脱衣所を同じ室温に温めて、すぐに温かいシャワーをできるように予め準備している。入浴が気持ちの良いイメージとなるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じ休息したり、安眠できたりするよう支援を行っている。夜、眠れない方には、医師と連携を取りながらケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により、一人一人の薬の服薬や副作用、用法や用量について理解している。服薬による症状の変化を見逃さず、医師の指示を仰ぐ体制ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・ぬり絵・体操・歌等個々の利用者様が得意分野を發揮し楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の心境と体調を考慮しながら買い物に出掛けたりする機会がある。行事の際には、あらかじめご家族にもお知らせして協力が得られやすいように努めている。	コロナ禍中でも職員との散歩や車での外出は従来通り変わらず継続させている。毎月のお出かけは、計画で終わらず実践しており、季節感たっぷりの内容で回数も充実している。家族との外出や自宅への外出については、リスク管理徹底の法人の方針に沿っているが、善処したい意向は強く持っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する機会や散歩時に利用者様が買い物が出る機会を設け、買い物を楽しみを味わって頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取り次ぎや手紙の投函、スマートフォンの使い方のサポートを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい廊下の壁面に季節ごとの催し物の写真や利用者様の作品を掲示している。	居間や通路の壁に切り絵やちぎり絵が飾られている。調査当日は、大雨で蒸し暑い猛暑であったが、事業所内は快適な湿度と温度が保たれていた。居間が見渡せる事務所からは、利用者に適度な距離を保って寄り添う職員の自然な姿が確認できた。利用者から職員に話しかける場面も見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVが良く見える位置がよい方・テーブルにて会話が弾む方々・畳でお琴をひかれる方・将棋を楽しまれる方等、一人一人が心地良く過ごすことができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で亡き家族(つれあいの)写真を置かれていた方・好きな写真を飾られる方等、少しの工夫でご本人様が過ごしやすい環境づくりに努めている。	利用者は日中のほとんどを居間で過ごしている。居室はシンプルだが、動線は確保できている。看取り期を居室で過ごしていた人の「トイレに行きたい」との要望に、職員3人がトイレに付き添い支援している。最期まで「自立支援」を優先させ、理念である「共に生きよう」が実践されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアの名前プレートでご自分の部屋を把握されている。手すりを廊下全体につけ安全に過ごすことのできる環境作りに努め、声かけ見守りにて自立支援をしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202437		
法人名	有限会社山秀		
事業所名	マミー・ケア・サポートグループホーム 2F		
所在地	静岡市葵区新伝馬1-10-50		
自己評価作成日	令和5年 8月 10日	評価結果市町村受理日	令和5年 9月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会		
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階		
訪問調査日	令和5年 月 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『ゆっくり、のんびり、生きがいをもち共に生きよう』という理念の基に、入所者様の人間性を尊重して。介護に努めます。  
 入所者様同士、また職員との絆を、より深める為にみんなで楽しめるイベントなど話題づくりを心掛けています。  
 毎月、季節の移り変わりを感じて頂けるよう、すべてのご利用者様にお花の鑑賞等の外出支援を提供しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、のんびり、生きがいを持ち、共に生きよう」という理念に基づき、ゆったりとした環境の中、理念の共有と実践に向けて努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等の活用で地域とのつながりを持っている。事業所としては、地域にむけて介護相談窓口として案内を出すなど取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症の理解を深めると共に地域の認知症の方の問題点を解決する糸口を提案している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、地域の方や他業種の方から意見を頂き真摯に問題に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの指導のもと、必要に応じて連絡を取り、助言を受け、質の向上を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の内部研修を行い、身体拘束をしないケアの実践に向けて施設で取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者自身が、外部の研修に行き、研修内容を内部研修にて発表することで施設全体の意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護に関する研修会に参加し伝達研修を通じて全職員の理解を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事項の説明・看取りの方針などに関しては、十分な理解や納得が得られるまで説明をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様のご意見は、面会時やお電話で応対している。また、ご利用者様のご意見はその都度対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにて職員からの意見の聞き取りを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の高齢化を考慮したシフト体制の提案をしたり、育児中の職員の出勤時間の工夫をし、働きやすさの工夫に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に力を入れており、また資格取得の斡旋を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加をきっかけに他事業所も同様に抱えていると思われる諸問題等について積極的に意見をかわすことができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っていること・不安なこと・要望等を傾聴して、安心感を抱いて頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること・不安なこと・要望等を傾聴して、信頼関係をつくる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要としている支援を聴き取り、医師をはじめ他職種と連携してサービス利用に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者は、共に生活する者同士の関係を気付く努力をし、家事など手伝って頂けることは一緒に行うなど工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的に介護に携わろうとして下さるご家族様もおられ、共に本人を支えていく関係を築いている。また、遠方でなかなか関わりを持ってない方には、参加型の行事にお誘いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に沿って、行きつけの理容室や将棋集会、またかかりつけの病院などへ通って頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、出来る限り皆様がフロアに集まり共に過ごして頂いている。また、体調不慮などでフロアへ出れない場合は、スタッフが居室内で寄り添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了された利用者様や、ご家族からのご要望があれば、フォローの体制を継続して相談に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望や意向の把握に努め、柔軟に対応している。困難な場合は、本人とご家族と会議を行い共に考え、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントを行っている。日常生活の中でご本人から知り得た内容も情報として職員間でも共有出来るように介護日誌に記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日々の申し送りで個々の状況を把握するとともに、他職種連携により総合判断し、個々の目標を定め残存能力維持・身体改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日々の生活や身体状況に合わせ、課題とケアについて、ご本人・ご家族・他職種との連携を保ち、創意工夫とアイデアを反映した計画の作成にあたっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画に基づく気づきや工夫を介護日誌や申し送りに記録し、職員間での情報の共有ができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているデイサービス、訪問サービス、居宅支援とも連携して可能であれば居宅へ戻れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみの公民館でのサークル活動に参加したり、いきつけの散髪屋に行ったりとご本人の希望に合わせて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を希望する利用者様には、その支援を行い、週2回定期訪問診療により利用者様の健康管理を図っている。オーナーが歯科医なので、口腔内の管理に迅速に対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療看護職員と常に連絡をとりながら支援している。また、体調急変時は協力医療機関の指示により、緊急訪問介護がかけつけてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、医療機関と利用者様のご家族との連絡を密に行い、安心につながる支援をしている。病院とのカンファレンスに参加して、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に十分な時間をもち確認している。また、終末期には改めて家族と意向の確認を行い、終末期の対応を家族と共に考える機会を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防局主催による普通救命講習を職員が修了。応急手当や初期対応の訓練を学んでいる。また、毎月、社内研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者様・職員が共に地域消防隊の立会指導のもと、防災訓練を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに関する情報は、スタッフ以外には開けることができない書庫に保管している。利用者様への声掛けは一人一人の人格を尊重するよう日頃より努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望は、やりとりを細やかに行うことで表しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースを大切に、その人らしい暮らしが出来るように努めている。ご希望は、介護記録に記入して、申し送り出来るようになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望により一緒にショッピングに出かけたり、ご家族の協力を仰いでいる。散髪は、ボランティア(資格有)により支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、時々梅干し作り・干し柿作り・ちらし寿司作り等をスタッフと一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや医師の指導を考慮した食事を提供している。水分補給も申し送り等で行い、必要量を摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後声掛けと介助により行っている。歯科医がオーナーなので異常時は迅速に対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄時間をチェックし、パターンや習慣をいかし気持ち良く排泄できるよう支援している。排泄の自立している方には、排泄時刻の記入をすすめ、スタッフも確認できる仕組みになっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因に沿って飲食や運動により予防と解消の支援を行っている。服薬の際は、医師の指示に従い身体の負担とならないよう配慮して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望やタイミングを大切に、利用者様の希望に沿って気持ちよく入浴して頂くよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じ休息したり、安眠できたりするよう支援を行っている。夜、眠れない方には、医師と連携を取りながらケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋により、一人一人の薬の服薬や副作用、用法や用量について理解している。服薬による症状の変化を見逃さず、医師の指示を仰ぐ体制ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・ぬり絵・体操・歌等個々の利用者様が得意分野を發揮し楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の心境と体調を考慮しながら買い物に出掛けたりする機会がある。行事の際には、あらかじめご家族にもお知らせして協力が得られやすいように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出する機会や散歩時に利用者様が買い物出来る機会を設け、買い物の楽しみを味わって頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取り次ぎや手紙の投函、スマートフォンの使い方のサポートを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい廊下の壁面に季節ごとの催し物の写真や利用者様の作品を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVが良く見える位置がよい方・テーブルにて会話が弾む方々・畳でお琴をひかれる方・将棋を楽しまれる方等、一人一人が心地良く過ごすことができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で亡き家族(つれあい)の写真を置かれている方・好きな写真を飾られる方等、少しの工夫でご本人様が過ごしやすい環境づくりに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアの名前プレートでご自分の部屋を把握されている。手すりを廊下全体につけ安全に過ごすことのできる環境作りに努め、声かけ見守りにて自立支援をしている。		